

台徳院殿小治久之後

大猷院殿小つらつまつり清土藏番と

つとむ

寛永譜 子孫石後喜玄孫日永延寶
三年死して嗣乏ることより家絶也

石尾

然後守藤原治ちか一ちか荒本志ちか摩元清ちかり

三男ちかりちかりちか 寛永譜 家譜 ちかちかめちか共ちか玄ちか清ちかといふ

因朝大業廣記 叙爵のちかくちかめちかにちか一ちか下ちか野守ちかくちか任

りちか 家譜 祖父ハ美化某ちかとちかくちか攝津國ちかり

住ちかりちか俵藤ちかとちか秀郷ちかりちか後裔ちかやちかりちかてちか荒本

盛長ちかりちか末ちかりちかりちか治ちか一ちかとちか記ちか荒本ちか改

めちかくちか石尾ちかとちか家號ちかといちかふちか 寛永譜 元清ちかハちか荒本

くく治一少清書と賜りて同五年關原
清陣の後黒田筑前守長政小女ありあ
つちりれりて同八年恩免とかりて
つちりて再京小住ありて家譜同十九年大坂
清陣に死る出たりて有馬玄蕃頭
豊氏より小加りり寛永譜元和元年所
によりて

台徳院殿小つ久奉つて夏清陣に在り

大隅守り組小加りりて供奉候つとじ

寛永八年七月廿六日七十五歳に

死寛永譜其子十玄治某多々慶長三年

九月父り使りて江戸小由り

台徳院殿小辨福一常治りて此清刀

とよひ馬一疋と賜りて同十九年六月十日

父り先たらし死りて久二男

七玄治昌家とつて治昌とて女鶴

右衛門少輔家元和元年より

台徳院殿につらうまのつゝ大坂の役

供奉一岡山清陣營にとりて父と

ともに

台徳院にゆみえ奉つゝ寛永譜家 忠日記追加のち

清書院番之列一寛永二年十二月

下總國岡田葛飾あ郡ぬらにとりて

采地二千石に清朱印と賜ふ家譜同三年

洛小のちとせ終ふと記述し奉つゝ東武 實録

同九年三河國吉田城と水野隼人正忠清

小たゆふ小より八月永井五右衛門吉次と

ともに彼地ととり仰とつゝ同十六

年正月浅草知楽院此事に奉りつゝ

ともに同十七年九月清使とさうむ播磨

國へあもむく同十九年八月信濃國松本

城と野隼人正忠清小賜ふたより中根

傳七郎とて小彼地小とて坪引後ハ
後とつとて同二十年七月朝鮮信使来
聘ハ時仰とてうけとて後ハ清目付と勤心
正保二年八月外曲輪とてハ在とて乃道
路小番屋と置事と沙汰と之記ハ
仰臥蒙る慶安元年閏正月増上寺修
造の奉行と勤めと小より時服三領黄
金二枚とたゆ家譜其子勤右清治重ハ

寛永九年八月

大猷院殿小拜詣 同十七年三月清
小性組ハ番士とて

寛永譜（今作清書
院番石尾七三信氏紹々

組ハ
？